

水田たより 1月号

令和7年1月6日

JA みえきた

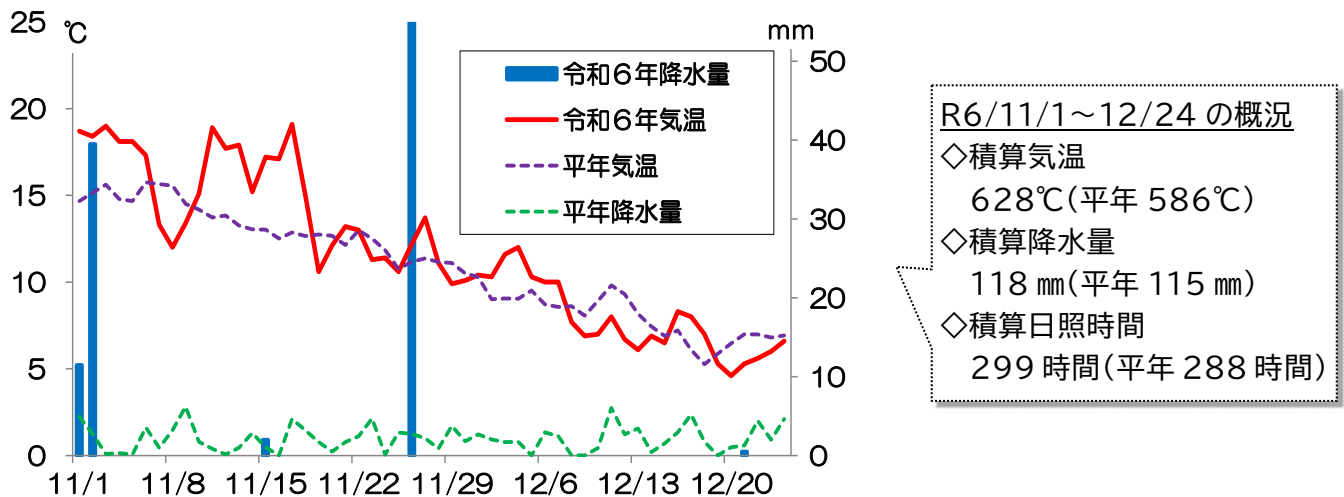
桑名地域農業改良普及センター

麦 気象状況と生育状況

今年は11月上中旬の気温が平年よりも高く推移した一方、11月中旬以降気温が大きく低下したため、播種時期による生育差が大きくなっています。また、11月26日にまとまった降雨を受けたため、播種直後のほ場では地表面が固まり、一部で苗立ちの遅れが発生しました。生育差に注意し、生育状況に合わせて、今後の作業時期を判断してください。

幼穂を形成する時期が早くなると凍霜害を受けやすくなります。例えば、幼穂長が2mmの場合、0℃以下の低温を受けると凍死症状が現れます。早期播種のほ場では麦踏みにより幼穂の形成を遅れさせましょう。

<気象状況>



<生育状況>

地域	品種	播種日	過去3か年との比較 (12月24日時点)			
			莖数	草丈	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	11/17	少	やや小	遅	同程度
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/7	少	小	やや遅	同程度
	大麦「ファイバースノウ」	11/5	やや少	やや小	やや早	同程度

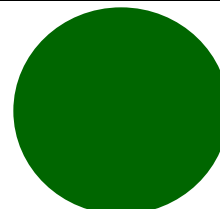
麦 葉色に注目！つなぎ肥を施用しましょう！

麦類は栽培期間中の肥料切れに注意が必要です。幼穂形成期まで葉色を維持できるように、つなぎ肥を施用しましょう。窒素目安量は1~2kg/10aです。SPAD値では、40未満（完全展開最上位葉の1つ下の葉の中央部を測定）が施用の目安です。

早期に播種したほ場では、生育が早まり、平年より葉色の落ちが早くなる可能性があるので注意しましょう。

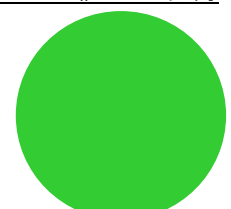
葉色の目安

SPAD値 40 以上



RGB=0,102,0

SPAD値 40 未満



RGB=51,204,51

大豆

令和6年産大豆作柄について

■ 気象状況

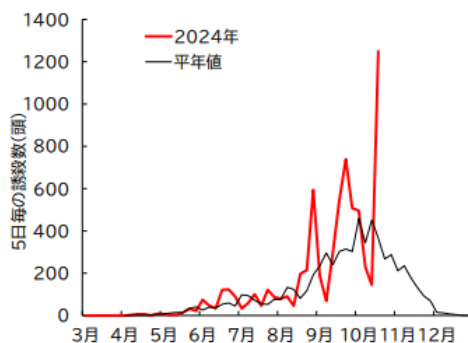
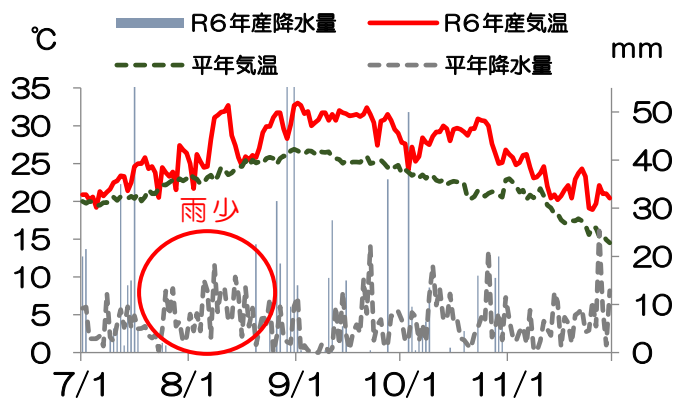


図1. フェロモントラップ（松阪市）におけるハスモンヨトウ誘殺数の推移

（三重県病害虫防除所病害虫発生予察注意報第7号より）

令和6年産大豆 播種適期である7月上中旬では、一時的な豪雨に見舞われたものの、天気の間をみて播種作業が進められました。しかし、7月下旬から8月下旬まで晴天が続き、7月上旬以前に播種が行われたほ場では、生育が抑制され、遅い播種時期のほ場では、**干害**による**苗立ち不良**が発生しました。近年8月は降水量が少なく、播種が遅いほ場では干害が発生する傾向があるので、適期播種に努めましょう。

ハスモンヨトウ 平年を大きく上回る発生となり、**白変葉の発生**が桑名管内で多くみられました。白変葉を確認したらすぐに防除しましょう。カメムシ類と同時の防除では、ハスモンヨトウが成長し、薬剤が効きづらくなる恐れがあります。

カメムシ類 平年より発生が多く、かつ気温が高く推移したため発生期間が長くなり、**吸汁害による青立ち**が多く見られました。防除適期は、1回目は開花20日後、2回目は1回目防除の20日後です。**必ず2回以上**行いましょう。開花20日後よりも前にカメムシ類が多発している場合は、早めに防除してカメムシ類の発生密度を下げることも検討してください。また、桑名管内における大豆の防除適期は水稻晩生品種の糊熟期と重複するため、水稻、大豆共に薬剤による適期防除を行いましょう。

その他

みどり認定について

農業の生産力向上と持続性の両立に向けて、令和4年に「みどりの食料システム法」が施行されました。三重県では「みどりの食料システム法」に基づき、化学肥料・化学農薬の使用低減などの環境負荷低減に取り組む農業者の「環境負荷低減事業活動の実施に関する計画」を認定（みどり認定）しています。

<みどり認定を受けるメリット>

- ① **設備投資の際の所得税・法人税の優遇**
認定を受けた計画に従って導入した設備の導入当初の税負担を軽減
- ② **さまざまな国庫補助金の採択での優遇**
強い農業づくり総合支援交付金、農地利用化等支援交付金など
- ③ **日本政策金融公庫の無利子融資等の貸付**

<「環境負荷低減」の取組例>

- ・土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減
- ・水稻中干し期間延長等、温室効果ガスの排出削減
- ・農業用プラスチックの排出削減

など

申請を希望される場合は、普及センターにご相談ください

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索